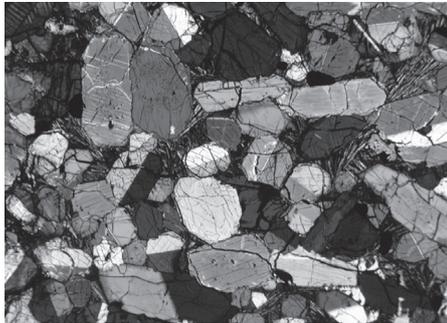


南極隕石が教えてくれること

南極観測隊はこれまでにおよそ17,000個にのぼる大量の隕石を発見、採集している。世界最大の隕石コレクションの一つになる。これは1974年に第15次隊が663個の大量の隕石を発見した。それをもとに、隕石が特定の場所に集まってくるという「隕石集積機構」が考案され、その仮説をもとに隕石探査を続けてきた結果である。平均で約1900mの厚さがある南極氷床の動きに基づく仮説である。その仮説を紹介する。演者は過去4回隕石探査に参加した。その経験をもとに、探査旅行風景、隕石が発見される場所の特徴、隕石の産状、発見された隕石の特徴などについて多くの映像を使って紹介する。発見された隕石には月や火星の石が隕石として含まれる他、およそ60種類ある隕石種のほとんどを網羅している。これらの隕石のほとんどは太陽系創成期の46億年前に形成されており、そのころの情報を隕石の中に秘めている。だから隕石は宇宙からの手紙だということもできる。これらの隕石を調べることによって、手紙を読むことによって、そのころ何かおこっていたかを知ることができる。また、月や火星の石を調べることによって、これらの星の地質や成長の過程を明らかにできる。これらの南極隕石が教えてくれることについて紹介する。

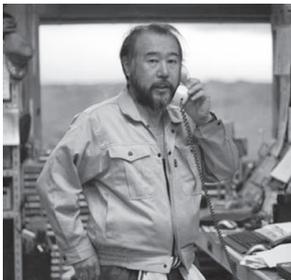


2011年7月5日(火) 16:30~18:00

講演の日時は、節電対策等の影響で変更になる可能性があります。
最新の情報は、センターホームページでお確かめ下さい。

慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1階シンポジウムスペース
参加費：無料（学生の来場歓迎）

会場準備の都合上、塾外の方は事前申し込みをお願いいたします



講師：小島 秀康氏

◇国立極地研究所、総合研究大学院大学極域科学専攻教授

秋田大学大学院鉱山学研究科修士課程修了、理学博士（東北大学）。専門は隕石分類学、岩石学。南極での隕石探査を継続し、南極隕石ラボラトリーが保有している隕石の分類を行うとともに、分類学的、岩石鉱物学的研究を進めている。著書に、「南極で隕石をさがす」（成山堂書店）がある。



REC for NS

research and education center for natural sciences